

KSKQ

イマージュ 2023年4月

態変

劇団態変は今年40周年を迎えました
これより名称から劇団を外し、新たに態変となります

1991年9月3日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・5・6・8の日)発行



態変 40周年 Presents
金満里ソロ公演

寿ぎの宇宙

監修=大野慶人 作=金満里

2023年
5月19日(金) 19:00
20日(土) 14:00 / 19:00
21日(日) 14:00

会場 メタモルホール

チケット4/3発売開始!

寿ぎの宇宙 監修 大野慶人 作 金満里

身体という宇宙で

本当に必要なものはなにか、考えている
背中で、全地球の息を感じ、じっとし

人が、人としてここに居る、ことの、ほんとうの意味を、問いかけて来る

生きる、生きて行く、ことの新たな出発を

大地の下に眠る、同胞（はらから）たちに、押されるように

引き受けるのだ、さあー、行くよ

『寿ぎの宇宙』6年ぶりの公演は、2013年この作品が生まれた小さなメタモルホールに帰って来ます。

あの時よりも、なぜか、漲る内発的なエネルギーを感じているから不思議です。

ある意味、私にとつてのソロ作品は、自己の迷いに思いを巡らせられる、内省への探索を追い求めるためにあります。

それが昨年3月に発表できた『漆黒の赤』というソロ作品で、地球のマグマを覗き込むところまで行き、ようやく逃げもできないこの地球上に浮上して来れました。

その後で、ここに演じようとする『寿ぎの宇宙』があり、ここへようやく戻ることができました。

だから、死者との対話に終わらせない、飽く迄も、夥しい死者の犠牲の上に成り立つ現世に立ち上がった生者。その生者が、死者を祀り許しを請い、生きることしかないと判ったのです。

世界は戦争という人類の愚行の歴史をくり返しています。

そんなどうしようもない現実から目を逸らさず直視し、生きる、ということはこの『寿ぎの宇宙』で、蚕が繭を紬いでいくように舞いたいと思います。

金満里

金満里ソロ『寿ぎの宇宙』 6年ぶり待望の再演。

『寿ぎの宇宙』は、3・11東日本大震災（原発震災）の後、人類の愚行への許しを乞い、祈りを込める作品として創られました。もう一つの契機として2012年3月11日の態変パフォーマー・福森慶之介逝去があります。障碍者は短命であることが多く、これまでに態変のパフォーマーは7名が亡くなっています。彼らへの思慕の念と、障碍者としての無念を抱えた死を弔うこと。それを様々な場でも声も出せずに亡くなっていったあらゆる人々への祈りと重ねて創り込まれました。

ギリシア悲劇、複式夢幻能、など、古来演劇の原点は「死者との交感」である、と云われます。悼み、弔うという行為を逝った人たちの命への寿ぎへと昇華させたとして本作は反響を呼び、それこそが持つて行き場のない感情を抱えて生きる現代の人の心に求められ、再演を重ねています。

今回、2017年東京公演以来6年ぶりの再演を、態変40周年の序曲としてお届けいたします。どうぞお見逃しなく。（態変制作部）

『寿ぎの宇宙』 シーンタイトル

- 第1場 手繰り送り
- 第2場 魂の集い
- 第3場 巡礼
- 第4場 五体投地
- 第5場 天上界の穴
無常の宇宙
鶴の舞



photo by bozzo

態変40周年

態変

2023年、劇団態変は旗揚げから40年目を迎えました。観客の皆さまの声援によって世界へと歩みを進めてきた態変はさらに進化を続けてまいります。

まずはこれをターニングポイントとし劇団態変は、その実体を反映すべく名称を新たにすることになりました。**本年4月より「劇団」という枠組みを外し、態変 とのみ名乗ります。**

様々なイベントも企画しております。どうぞ今後ともご注目を、よろしくお願いいたします。

態変ホームページも 4/1 リニューアル OPEN !

〈詳細は随時 SNS, 公式 HP で発表 #態変 40 周年〉

40周年記念公演／イベント開催！

◎連続企画・態変アーカイブ公演映像 上映会 @メタモルホール

旗揚げから40年間で、劇団態変の作品は78作を数えます。貴重な態変アーカイブの中から、10月まで月に1,2本を上映する集いを開きます。

- 1回目 3/11 (土) 17:30～ 『一世一代 福森慶之介 又、何処かで』
- 2回目 4/15 (土) 18:30～ 『色は臭へど』
- 3回目 5/27 (土) 18:30～ 『月下咆哮』横浜 BankArt 映像 予定以降、毎月開催

◎金満里ソロ『寿ぎの宇宙』 5月19日～21日 @メタモルホール

◎態変身体ウラ・オモテ ワークショップ 7月下旬 予定

◎態変40周年記念公演

新作『私たちはアフリカからやってきた』

作・演出・芸術監督 金満里
2023年10月27日～29日 @ABCホール (大阪市)

インタビュー

「態変40周年の今」

座長・金満里に聞く！

Q 名称変更は、どういう思いで？

よりシンプルに、「態変の舞台をみてもらったらわかる」というような気持ちで。何にも形容しがたい表現をやっている。態変、ということがひとつの固有名詞で語られるように、40年やってきたことの布石として、「劇団」を外しても勝負できるのではないか。むしろその方向を目指さなアカンのではないか、という思い。

Q 最初に態変をやろうと思いついた時のことを、あらためて振り返ると？

当時、私が沖繩にぞっこんほれ込んで、しょっちゅう沖繩通いをしてきた。それは、自分の住んでいる場を切り離し、行って単に帰ってくるものではなく、そこで大きな出会い・気づきがあったものを元いた場所に返していく、という予感があった。車いすや補装具、そういうものをいっさいかなぐり捨てて、身体一つで転がったら表現になるやん、という、西表のジャングルの中で閃いた気づきを、返していこうと。

そうやって態変が生まれ、今は作品に導かれるようにして態変が続いている。一つの作品を凝視していると、次の課題が見えてくる。

Q 旗揚げの頃と40年たった今と、社会の変化をどのように感じていますか？

時代は障碍者にとって良くなってきたのか、ということも聞かれることも多いが、良くなってきた気はしない。変化としては、戦争が、こんな形で身近になってくるということに驚いている。ウクライナへのロシア侵略、ニュースをひどいなあと思ってみてもやはり実感がない。私の時代にはベトナム戦争があつたけれど、新たに戦争がおこって、それがなかなか止められないのを見た時に、世界がこれに突き進まない方を選んでほしい。なんとか止めたい、という風に思う気持ちは強い。

表面的には変わったが本質は変わっていない、むしろ見えなくなつて隠されてきたことが、それでは済まなくなつてくるのではないかという怖さ、を今は感じている。

Q 今、特に再演してみたい作品は？

『ニライカナイ・命の分水嶺』やな。私の好きな抽象性で作った。アボタカの足が旅していく自己再生の物語の元には、私の施設時代からずっと続いている、脱走願望がある。「いつかここから抜け出してやる」というエッセンスをストレートに表現した。相模原の施設で障碍者19名が殺されたことを受け、そこをもっと出さなアカンという思いで作った。当時実際に施設にいた、私が足しか記憶できなかった障碍者の友達（アボタカ）のことを、舞台に出す、という罪深さ。それは引き受けながら、19名が殺されたことを受

Q 今後の自身のビジョンと、態変のビジョンそれぞれ教えてください。

自分のソロでは、もう一度世界に飛び出したい。自分のソロ身体表現でもって、世界に通用するようになりたい。

態変では、身体障碍者のぐちゃーとした、異種格闘技みたいなエネルギーをもっと出せたらいいな。健常者の身体が舞台に一切出せないというのが態変の良さで、そこに自由さがあるのが他のものとの大きな違い。だから、障碍の違いがもっと炸裂するような、いろんな障碍の種類の人たちが出てきたら面白い。やりたい人に、名乗り上げてほしい。殴り込みにきたらおもしろいと思う。

Q 金さんにとっての芸術とは？

自分の、背骨みたいなもの。私のポリオの背骨はぐにやぐにやで、屈曲しながらも螺旋している。芸術もその通り。でも、自分の筋（すじ）になつている、一筋縄ではないかないもの。存在そのものとしたいなと思つている。

Q 観客に求めることはありますか？

態変芸術はもうそろそろ真剣にしなやかに、人間の有り方そのものの価値を変えていく、革命をやって行くときだと思えます。世の人々にも、それを必要として欲しいですね。



態変 賛助会員制度（2023年度） 会員募集

～「態変賛助会員制度」のはじまり～

2012年に大阪市小規模作業所助成制度が廃止となり、希望する障害者団体の支援は、国の制度に全て移管。態変でも検討しましたが、制度に則って事業を行えば、膨大な事務等作業で公演も打てなくなる事態でした。「それでは本末転倒だ！」と、行政には頼らず自主運営を選択し、態変事務所・メタモルホールの維持は、会員の方々からの年会費で賄わせていただく賛助会員制度を作ったことがはじまりです。

そしてこの自主運営も、お陰様で12年目を迎える事ができました。今年度は態変40周年にあたり、これを契機に、更なる発展をはかりたいと意気込んでいます。生きる糧となる態変芸術が、ますますその中身を充実させ、しっかりと街へ根づき遠くの世界へも広がっていけるように。まだまだやりたいこと、やらねばならないと感じている事は沢山あります。そのために皆様のご協力が、底支えとなっていることは間違いありません。何卒、2023年度態変賛助会員へのご応募を、ご検討くださいますよう、お願いいたします。

年会費

個人会員(年会費) 一口 5,000円
法人会員(年会費) 一口 20,000円

会員特典

- ・会員証発行
- ・劇団態変公演ダイジェスト映像 DVD進呈(年1回)
- ・態変公演チケット500円引き

入会方法

郵便振替

同封の振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。
口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変

PayPal

メールアドレスとクレジットカードをお持ちの方はホームページよりご利用いただけます。態変HP → 日本語TOP → 「賛助会員制度」にお入りください。

情報誌イマージュ vol.85 2023年春号 近日発刊予定

特集●白花卉の歌 第2報

2022年11月に劇団態変が上演した『白花卉の歌(しろはなびらのうた)』は、同劇団が創立40周年をむかえる前夜にあたって、その真骨頂といえる抽象的身体表現への回帰と、そこから、より核心に迫る表現への飛躍を期して取り組んだ、ある意味ひとつの画期を成す作品でありました。それゆえ、終演から5ヶ月も経ちましたが、その記録のため誌面を割くことと致しました。



『白花卉の歌』舞台写真 撮影/中山和弘

態変は1983年の旗揚げ以来、最前衛の、前人未到の芸術領域の開拓を志してきました。健常者主導のアートは多少なりとも優生思想を内包してしまう、それを塗りかえる使命としてです。そのもう一歩先に、より自由に、どこにも属さず、人間身体として新たな地平を開拓していくことをめざし、40周年の区切りを機会とし「劇団」の冠を外して、「態変」だけを名乗ることと致しました。

つまり、『白花卉の花』は「劇団態変」として上演した、最後の作品となったわけです。

- ・『白花卉の歌』アフタートーク② 倉田めば×金満里 身体障碍に嫉妬する
- ・『白花卉の歌』アフタートーク③ 田口ランディ×金満里 原点回帰ここに在り
- ・劇評 他

1冊：500円 / 年間購読 1500円(年3回・送料込) バックナンバー3冊 1000円

<購入方法> 同封の郵便振替用紙にご記入の上、お振込み下さい。単品でのお申込みは希望の号数記入もお忘れなく！
口座番号 00920-8-320343 加入者名 イマージュ・劇団態変 ⇒詳細はホームページからご覧ください

<態変40周年アンケート企画> #態変40周年

あなたの「①好きな態変作品／②観てみたい態変作品／③印象に残るシーン」を教えてください！

1983年5月の京大西部講堂の『色は臭へど』から、2022年11月伊丹市アイホールでの『白花卉の歌』まで。

態変は様々な作品を様々な場所で上演してきました。どこで上演したどのような作品が皆さまの印象に残っているか、態変40周年の節目に教えていただきたく、アンケート企画を開催します。最も記憶に残る新しい作品でも、記憶を手繰り寄せて懐かしい作品でも、好きな作品、もう一度観たい作品を、お気軽にお寄せいただければ嬉しく思います。作品名が分からなければ、どこで見た、誰のどんな場面か書いていただくのでもOKです。

作品をあまり知らないという方も、態変ホームページでは過去の作品名や写真を公開しています。この機会にご覧いただき、観てみたいと思ったものを教えていただければ嬉しいです。

ご回答は右記のQRコード(WEBアンケートフォーム)から、または #態変40周年 とハッシュタグをつけてご自身のSNSから発信ください。

次回DMで皆さまの意見をご紹介できればと思います。態変アーカイブ映像上映会で、あなたの書いた作品が採用されるかも???



態変HP 作品紹介



WEBアンケートフォーム

[報告] 連続企画・態変アーカイブ公演映像 上映会 #1 会場/メタモルホール

態変の名パフォーマー、福森さんの命日でもある3/11、40周年連続企画・態変アーカイブ公演映像上映会の1回目をメタモルホールで開催しました。急な呼びかけであったにも関わらず11名の参加者を迎え、『一世一代 福森慶之介 又、何処かで』の公演映像を楽しみました。参加した新人黒子のレポートです。

この作品は四人の男の物語である。葉の落ちた木の下で、四人の男が場を共有する。妙に気が合っている年老いた男と若い男。自分本位な主とその奴隷らしい男。四人の男の邂逅、そして時間による変化と変化しないものが、描かれている。年老いた男を演じる福森慶之介は末期癌に侵されていたと知っているせいか、全体的に果敢なさや静寂さを感じる。しかし、状況がほとんど説明されないので、想像の余地が大きく、面白いと感じた。私は年老いた男と若い男の関係に興味を湧いた。二人は、抱きしめたり、追い払ったり、漫才を始めたたり、帽子を交換したり、ふらっと消えたり現れたりする。お互いを信頼する関係が長く続いているのだろうかと思わせられた。主と奴隷は、再び現れた時、盛者必衰の理を表すように、疲れた姿に見えた。しかし、年老いた男と若い男は、変化したようには見えなかった。変わらずにあることはできないだろうが、心を通わせられる人、探してくれる人がいるのは嬉しいことだと感じた。(黒子Y・N)

[パフォーマー通信]

『白花卉の歌』を終え、現在、態変パフォーマーたちは自主稽古を行っています。作品内容や演出意図を読み込んで、作品における自分の役割や身体表現をつくり込んでいくのも大切ですが、公演の稽古が無い時期に、自分たちの身体、そして内面を掘り下げていくことは、とても大切なことだと考えています。「その人にしかない身体」を表現として現すことは、その人の障碍だけでなく、内面にも迫っていくことだな、と感じています。内も外も覗き込むような実験を重ねながら、40周年記念の新作公演では、これまで以上にびっくりするような表現で皆さんにお会いできることを、楽しみにしています！(パフォーマー 小泉ゆうすけ)

態変 40周年 Presents
金満里ソロ公演

『寿ぎの宇宙』

監修 = 大野慶人

作 = 金満里

公演日程 2023年
5月19日(金) 19:00
5月20日(土) 14:00 / 19:00
5月21日(日) 14:00
※受付開始は開演の30分前、開場は20分前

会場 メタモルホール (態変アトリエ)
大阪市東淀川区西淡路 1-15-15 JR 東淀川駅徒歩2分

チケット [前売] 一般 3,500円
障害者・介助者 各 3,000円
25歳以下 2,500円
[当日] 4,000円
※車イス席は各回2台限定 (要事前予約)

チケット発売 4月3日(月)

ご予約／お問合せ

〈web 予約〉

<http://www.asahi-net.or.jp/~tj2m-snjy/form/ticket2.html>

〈態変〉

taihen.japan@gmail.com

06-6320-0344 (留守番電話の場合はお名前とお電話番号をお残してください)



♪メタモルカフェ open ♪

公演の前後は、お久しぶりの
メタモルカフェもオープン予定。
drink&food で、ごゆっくり
お過ごしいただけます。

連続企画・態変アーカイブ公演映像 上映会 #2

日時 4月15日(土) 18:30 ~ (開場 18:15)

上映作品 『色は臭へど』

会場 メタモルホール

参加申込 taihen.japan@gmail.com

※お名前・ご連絡先メールアドレスをご記入の上、「4/15 上映会参加希望」として送信ください。

態変ロゴ：東學 (188)

編集人 (返送先)：イマージュ 金満里 小泉ゆうすけ 仙城真 和田佳子

〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路 1-15-15

tel/fax 06-6320-0344 e-mail taihen.japan@gmail.com 定価 50円

発行人：関西障害者定期刊行物協会／大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F